

2010 年度 人間科学研究所 戦略的研究基盤形成支援事業 活動報告書

2011 年 2 月 28 日提出

1. 研究チーム代表者	所属 産業社会 学部 学部 職名 教授 氏名 竹内謙彰
2. チーム名称	発達支援
3. 研究活動実績(200～400字程度)	
引きこもり支援領域では、以下のような活動を展開した。京都市から調査依頼(テーマ:ひきこもり状態にある若者に対する訪問支援の試行的実施を通じた効果検証および具体的支援方法を確認するための調査研究)を受け実施し、現在報告書作成中である。また大阪障害者センターとの共同研究により、障害者福祉現場労働者のメンタルヘルス調査を行った。この報告書も現在作成中である。その他、韓日のひきこもり比較研究を行い、韓国調査及び韓国サンミョン大学の李インスー教授との我が国でのインタビュー調査を実施した。その報告は2011年3月発刊予定の産業社会学学会「産社論集」に「ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって―若者問題に関する韓日間比較調査から― 第1報」として投稿(掲載決定)している。 成人期の発達研究領域では、「成人期の発達研究」に関する図書での分担執筆(概説および夫婦関係に焦点化したもの計2件)、「乳幼児をもつ有配偶者を対象とする親役割への適応と夫婦関係」に関するオンライン調査、「親役割をめぐる相互調整と夫婦関係」に関する企画の開催(日本発達心理学会第22回大会自主ラウンドテーブル)を行った。 自閉症スペクトラム児への支援領域では、例年行っている自閉症スペクトラム児の療育活動「あひるくらぶ」を今年度も継続して行ってきた。また学術振興会のアジア・アフリカ研究基盤整備事業とも連動しながら、発達障害児とその家族のニーズに関わる質問紙調査の分析を継続し、その一端を日本保育学会で報告し、また3月にも発達心理学会で報告する予定である。さらに親のニーズを捉えるため、インタビュー調査を行い、現在その分析を進めているところである。 不登校支援の領域では、立命館宇治中学校高等学校、立命館守山中学校高等学校、近江兄弟社高等学校単位制課程にて、毎月1回不登校など学校不適応生徒への支援を検討する「HAT会議」、「コンサルテーション会議」、「事例検討会議」にスーパーバイザーとして参加してきた。また東大阪市教育センターにて、不登校児童生徒への支援を検討する事業等にスーパーバイザーとして参加してきた。 幼児におけるわかりあいのコミュニケーション領域では、2010年7月18日、9月8日、11月20日および2011年1月23日の4回にわたり時間をとった研究会を行い、これまでのデータをまとめた報告書を作成した。 様々な困難を抱えた人への発達支援の領域では、被虐待児への施設ケアについての研究を行った。児童養護施設や情緒障害児短期治療施設の子どもや職員を対象に、「問題行動」の実態やそれへの対応について聞き取り調査を行った。さらに、サインズ・オブ・セイフティ・アプローチによる子どもたちとの創造的な話し合いのツールや「安全の家」づくりのプロセスを学び、実践研究を行うための準備を進めた。 なお発達支援チーム全体では、2010年12月21日に研究会を行い、自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する聞き取り調査研究の報告が行われたほか、チームの研究の進め方についての意見交換がなされた。	